

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人
第5学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

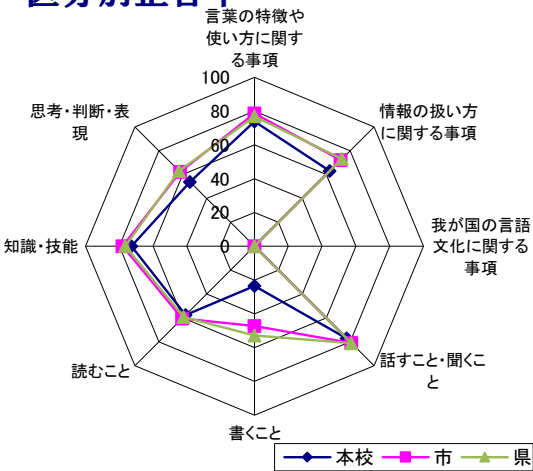
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.9	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	63.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	77.2	81.0	81.1
	書くこと	23.4	47.2	52.8
	読むこと	57.6	60.5	59.3
観点	知識・技能	72.8	78.0	76.5
	思考・判断・表現	53.9	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

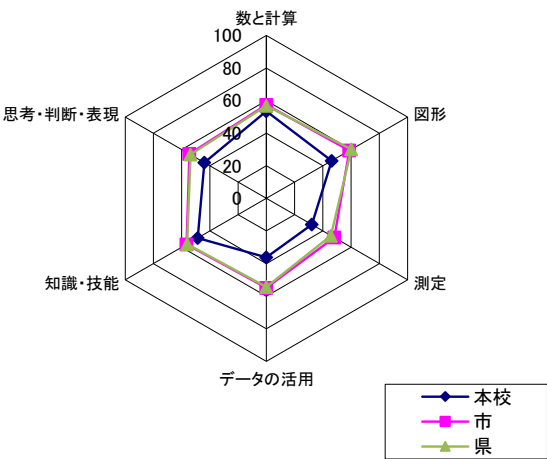
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○漢字の読みの問題は正答率が高く、3問中2問は、市の平均を上回っている。 ●漢字の書きの問題、ローマ字の問題の正答率が低く、市の平均を下回っている。 ●主語と述語の関係を問う問題は、正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っており、課題が見られる。	・今後も漢字の読み書きや指示語、ローマ字等の基礎・基本の学習を充実させ、高学年に向けて書くことの基礎・基本を身に付けられるようにする。 ・文の中における主語と述語の関係を捉えることができているかを、授業の中で確認することで身に付けられるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題の正答率が低く、県や市の平均を下回っている。国語辞典の使い方に関課題が見られる。	・教科書に出てくる説明文や物語文を読む際、言葉の意味を調べる場面を意図的に設定し、辞書の活用を習慣づける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●司会者として、参加者の発言を基に考えをまとめることができるかどうかをみる問題の正答率が低い。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げて話す問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。	・話を聞く際のメモの取り方について、箇条書きやポイントとなる言葉を聞き取って書くようにするなど、相手の話の要点をつかんで聞き取れるように指導を工夫する。 ・朝の会等でのスピーチ活動では、国語の学習とのつながりを意識し、起承転結など話型を基にし相手に伝わるように工夫して話すようにするなど指導を工夫する。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●自分の考えを書く問題の正答率が低い。また、無回答率が市や県の平均を大きく上回っている。	・国語の学習だけでなく、朝の学習での短作文作りや授業や行事の振り返りなどを通して文章を書く機会を確保し、文章を書くことへの苦手意識の払拭につなげる。 ・文章の長さや段落数を指定するなど、条件付き作文の活動を行うことで、書くことへスモールステップを試みる。 ・自分の考えの理由を明確にしたり、根拠となる事例を挙げたりすることを意識した文章を書く機会を設ける。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○登場人物の気持ちや場面の様子を叙述を基に捉える問題の正答率が高い。 ●叙述を基に指示語の内容を捉える問題や、中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。また、無回答率も高い。	・文章全体を読み、話題の中心を捉えたり、要約できるようにしたりする活動を行う。 ・単元のまとめの際には、全体を読み通し、自分の言葉でまとめをすることができるような指導を工夫する。 ・指示語について、授業の中で機会をとらえて確認するようにし、意識付けを図る。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.5	57.4	56.9
	図形	46.2	58.7	60.1
	測定	32.1	48.1	45.7
	データの活用	36.2	54.9	54.3
観点	知識・技能	48.7	56.6	56.2
	思考・判断・表現	44.0	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

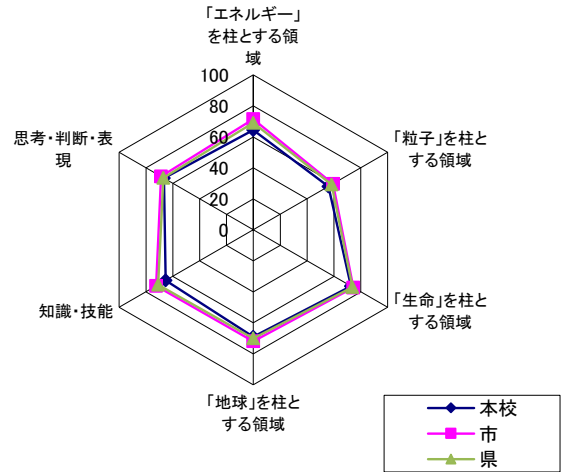
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○少数のしくみや表し方を答える問題の正答率が高い。 ○2けた×1けた＝3けたの計算問題や、数量の関係を□を使った図で表す問題の正答率が高く、市の平均を上回っている。 ●かけ算の性質を利用して、2けた×1けたを計算する式を立てる問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。また、無回答率も高い。式の仕組みの理解や、計算のきまりの理解に課題が見られる。 ●同分母の分数のひき算について、計算のしかたを説明する問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。	・授業や朝の学習、宿題などを通して繰り返し計算問題に取り組んできた成果と考えられる。今後も継続して計算練習を行うことで、速く正確に計算できるよう、基礎・基本の定着を図る。 ・文章を正確に読み取るために、大切なところにアンダーラインを引かせるなどして、意識付けを図る。 ・これまでの学習を活用しながら、計算の仕方を自分で考えたり、計算方法を議論したりする活動を充実させ、説明する力の向上を図る。
図形	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●球の半径や直径を利用して長さを求めることができるかどうかをみる問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。 ●二等辺三角形の性質を理解し、3つ目の頂点を見つけられるかどうかを問う問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。また、無回答率も高い。図形の性質の理解に課題が見られる。	・朝の学習等を通して、図形全般の性質の復習を行い、作図をしたり、図形の特徴を捉えたりする機会を積極的に設けることで、図形問題への苦手意識や抵抗感をなくしていく。 ・図形の性質を確認してから作図をさせたり、図形の性質を使って問題を解く機会を多く設けたりすることで、実感を伴った理解につなげていく。
測定	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●長さの単位をそろえて、2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短いかを説明する問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。また、無回答率も高い。単位換算をする力に課題が見られる。 ●重さを基準量のいくつ分かで考え、説明する問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。また無回答率も高い。	・朝の学習等を通して、長さや重さの単位の復習や、単位換算の練習を行うことで定着を図る。様々な場面において、身近なものの長さや距離を測る経験を取り入れることで、長さの感覚を掴むことができるようにする。 ・算数だけでなく理科や家庭科等の授業を通して、重さを測ったり、いくつ分かで分けて考える機会を設けたりし、教科横断的な取り組みを含め、身近なものや日常生活と関連付けながら、理解を深めていく。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている。また、無回答率も高い。表の読み取り方に課題が見られる。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフについて、その棒グラフが適切である理由を選ぶ問題の正答率が低く、市や県の平均を大きく下回っている、また、無回答率も高い。	・表の各要素が何を意味するのかを丁寧に確認したり、表から分かることを説明させたりすることで、表の読み取り方に慣れさせていく。また、他教科や学校生活の様々な場面においても、データを表にまとめる活動を取り入れることで、表の構成要素の理解を深めていけるようにする。 ・算数のみならず、社会や総合などにおいてもグラフを用いて自分の考えを説明する活動の充実を図ることで、グラフの特徴や利点の理解につなげていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	64.4	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	56.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	72.7	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	69.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	65.4	72.5	70.9
	思考・判断・表現	66.6	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県を平均を下回っている。 ○輪ゴムの数と車が動く距離の関係を問う問題の正答率が高く、市や県の平均を上回っている。 ●豆電球に明かりがつく回路の組み合わせについて問う問題の正答率が低い。明かりがつく回路とつかない回路を見分けることに課題が見られる。 ●実験結果から糸電話の音の伝わりを問う問題の正答率が低い。音の伝わりの条件についての理解に課題が見られる。	・豆電球に明かりがつく回路の基本構造を確認し、形を変えた回路図などの応用にも触れていくようにする。 ・音の伝わりの基本的な理解はできているので、類似問題を示して、提示された条件の確認や理解ができるよう、支援していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県を平均を下回っている。 ●実験の様子から実験結果が異なったことを問う問題の正答率が低い。はかりを用いて正しく調べる技能の定着に課題が見られる。 ●同じ体積でもものの種類によって重さが違うことを問う問題の正答率が低い。同じ体積でも種類によって重さが違うという知識の定着に課題が見られる。	・理科の学習にとどまらず、算数の学習や日常生活を通して、はかりの正しい使い方を身に付けられるようにしていく。 ・同じ体積で材質の異なるものについて、実際に手で持ったり重さを量ったりするなど、材質による違いを実感できるようにする。また、材質と重さに着目して考察できるように、実験結果をまとめる際には表を用いて分かりやすく整理するなど、思考を促す手立ての充実を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○植物の成長の過程を問う問題の正答率が高い。 ●モンシロチョウのあしがついていない部分を問う問題の正答率が低い。モンシロチョウの体のつくりについての理解の定着に課題が見られる。	・身の回りの様々な生き物の観察を行い、昆虫の体のつくりを基に分類するなど、視点を明確にした観察を行ったり、観察結果や考察を自分の言葉で説明したりする活動の充実を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●方位磁針の正しい使い方を問う問題の正答率が低い。方位磁針の正しく使う技能の定着に課題が見られる。 ●太陽と日陰の位置関係と日光が遮られてできた影の位置を問う問題の正答率が低い。太陽と日陰の位置関係についての知識の定着に課題が見られる。	・理科の学習だけにとどまらず、社会科や日常生活全般を通して、方位磁針の使い方との関連を図っていく。 ・実際に太陽と日陰の位置を確認するなどの体験を通して、日常的に理科の学習内容と関連した体験ができるように支援していく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」の質問に対し、肯定的回答をした児童の割合は県平均を上回った。家で学習を行う習慣が身についてきており、家庭の協力や教師の声掛けの成果であると考えられる。

○「家の人として来ることについて話すことがある。」「自分は家族の大切な一員だと思う。」の質問に対し、肯定的回答をした児童が多い。家庭でのコミュニケーションが充分に行われており、自己有用感の高まりから、落ち着いた学校生活を送ることができている児童が多いと推測される。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っってクラスのきまりなどを決めていると思う。」と回答をした児童の割合は県平均を上回った。今後も特別活動や、学級活動を通して、自己決定をしたり、児童同士のよりよい人間関係を構築したりすることに努めていきたい。

●「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」「ぎ問や不思議に思ふことは、分かるまで調べたい。」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の質問に対し、肯定的回答をした児童の割合は県平均を下回っており、かつ「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問に対しては否定的な回答をした児童は63.3%であった。未知の事象への探求心や困難なことに挑戦することに課題が見られる。学習課題との出会わせ方や、解決の仕方を児童が工夫できるようにするなど、問題が解けた時の達成感を味わわせるようにしたい。

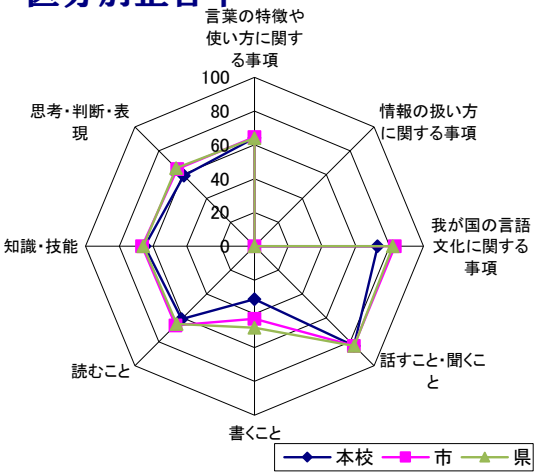
●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」の質問に対し、「30分未満」と回答した児童の割合は73.4%であった。読書の時間を確保し、図書館を活用した授業を提案するなどするとともに、家庭での読書を啓発していきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」「地いきや社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」「新聞を読んでいる。」の質問に対し、肯定的回答をした児童の割合は県平均を下回っている。「社会の学習が好き」「社会の学習は、将来のために必要だと思う。」と回答をした児童の割合が多いので、授業で新聞を活用したり、地域の話題を取り入れたりす機会を増やして、興味関心を高めていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.1	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.9	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	83.3	83.3	83.4
	書くこと	31.3	42.8	48.2
	読むこと	60.9	66.1	65.1
観点	知識・技能	65.0	66.5	65.9
	思考・判断・表現	59.1	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

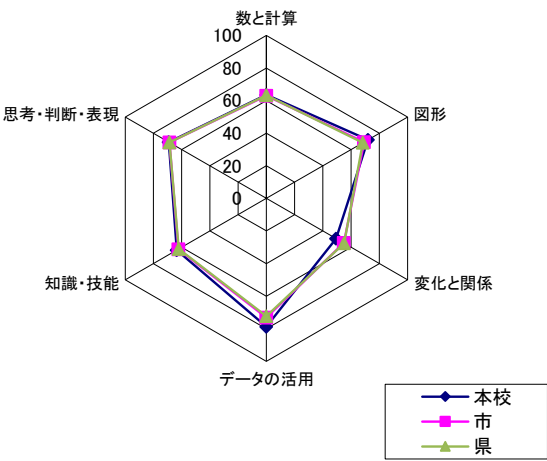
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや低く、県の平均と同じである。 ○漢字の読み書きの問題については、正答率の高いものが多い。 ●熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ問題の正答率が低く、市や県の正答率を大きく下回っている。熟語構成の仕組みの理解に、課題が見られる。	・今後も朝の学習や家庭学習等を通して、漢字の読み書きの習熟を図っていく。 ・熟語に使われている漢字の意味を捉えさせたり、熟語の意味を調べる活動を取り入れたりすることで、熟語の構成の理解につなげていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を大きく下回っている。 ●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題において、市の正答率を大きく下回っている。ことわざの意味の理解や、ことわざを日常生活の場面に照らし合わせて考える力に課題が見られる。	・ことわざや慣用句の背景にある故事や教訓を捉えさせることで、理解を深めることができるようにする。また、ことわざや慣用句に触れる機会を意図的に設け、実感を伴った理解につなげていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率が高く、市や県の正答率を上回っている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる問題において、市や県の正答率を下回っている。	・今後も、要点が伝わるような話し方の工夫を考えたり、実践したりする活動を取り入れていく。 ・要点をメモしながら聞く活動や、聞き取った内容を説明する活動を取り入れることで、話の要点を正しく捉えられるようにしていく。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●アンケート調査の結果から分かったことと、それに対する自分の考えを二段落構成で書く問題の正答率が低い。また、無回答率が高く、県の平均を大きく上回っている。自分の考えを短い文章にまとめて表現しようとする力や、文章の構成の仕方に課題が見られる。	・朝の学習において、短作文や視写の活動を位置付けることで、自分の考えやその根拠の書き方に慣れさせ、書くことへの抵抗感を減らしていけるようにする。 ・授業では課題設定を工夫することで、相手意識や目的意識を明確にし、書くことへの意欲を高めることができるようにする。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○物語文において、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像する問題の正答率が高く、市や県の平均を上回っている。 ●情報と情報との関係を理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題の正答率が低く、市や県の平均を下回っている。また、無回答率が高い。文章を要約して説明する力に課題が見られる。	・今後も物語文を読む際には、叙述を基に、人物の気持ちの変化について捉えることができるようにする。また、引き続き読書活動を推奨し、読む機会を多く設けていく。 ・物語文や説明文に書かれていた内容を説明したり、要約したりする活動を取り入れ、書く力と併せて、読む力を育てていく。その際、児童にとって必然性のある課題設定をすることで、読むことや書くことへの抵抗を減らし、意欲を高められるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.6	63.0	63.3
	図形	71.9	69.2	68.3
	変化と関係	49.3	54.8	55.0
	データの活用	78.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	63.6	62.3	62.1
	思考・判断・表現	69.2	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

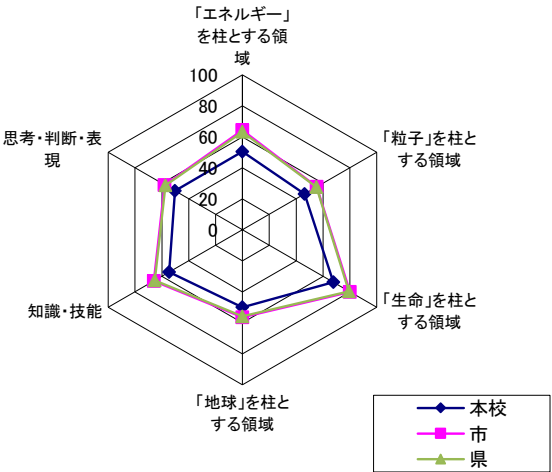
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○小数のかけ算やわり算の答えを求める設問の正答率が市や県の平均を大きく上回っている。 ●二つの小数の大きさを比べる設問の正答率は低い。小数の仕組みについての理解に課題が見られる。	・朝の学習の時間や宿題等を通して、かけ算わり算の練習を繰り返す行うことで、正しく計算することができたと考えられる。今後も継続し、定着を図っていく。 ・位取り表や数直線などを用いた指導を繰り返す行い、数の仕組みについての理解を高め、習熟を図る。
図形	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○直方体や立方体の違いについての設問や三角定規の角の大きさを求める設問の正答率が高く、市や県の平均を上回っている。 ●三角定規を組み合わせてできる角の大きさを式に表す設問の正答率が低く、市や県の平均を下回っている。	・三角定規の角度を再確認し、実際に三角定規を動かしながら角度がどのように変化していくのかを調べる活動を通して、角の大きさについての習熟を図る。 ・様々な図形に対して、辺や面、角について正しく理解できるように実物を用いて指導したことを式に表したり、概念化したりすることを通し、理解を深める。
変化と関係	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係について表から読み取る設問の正答率が低い。また、無回答率が市や県の平均を上回っている。 ●割合を使って長さを求める設問の正答率が低い。また、無回答率が市や県の平均を大きく上回っている。	・問題文を正しく読み取ることで、問題の意味を理解できるようにする。伴って変わる2つ数量の関係について正しくとらえ、立式したり、割合の仕組みについて算数の見方・考え方を働かせる授業を行うよう心掛けたりすることで、習熟を図る。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○折れ線グラフの特徴を理解し、変わり方などを読み取る設問の正答率が高い。また、二次元の表の空欄にあてはまる数を答える設問の正答率が高い。 ●二次元の表の空欄がどのような人数を表しているかを説明する設問の正答率は市の平均とほぼ同じであるが、無回答率は市や県の平均を上回っている。	・折れ線グラフや二次元の表を読み取り、答えるだけでなく、変化の様子や表の数値がどのような意味を表しているのかを説明する機会を増やし、グラフや表を読み取る力を高めていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.5	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	46.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	67.7	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	50.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	54.6	66.0	65.3
	思考・判断・表現	50.2	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ●簡易検流計の針のふれ方を答える問題、並列つなぎと乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路の回転量を比較し、答える問題の正答率が低い。検流計の扱い方や読み方、電気が流れる回路の理解に課題があると思われる。	・検流計を用いて実験し、数値を読み取る活動を取り入れる。 ・乾電池のつなぎ方と電流の大きさを関連付けて考え、回路と電流の大きさの理解を図るようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○とじこめた空気と水を圧した場合の性質と身近な出来事と関連付けて考える問題の正答率が高い。 予想をしながら、見通しをもって実験に取り組んできた成果であると考えられる。 ●温められた空気の動きを答える問題、湯気と水蒸気の違いについて答える問題の正答率が低い。実験に基づいた正しい知識の定着と実験の結果から考察することに課題が見られる。	・実験のめあてと予想を明確にして実験に取り組んだり、学習した知識を使って身の回りの現象を捉えたりする活動を多く設定する。 ・学習と日常生活との関連を図り、理解を深めることへの意欲付けをする。学習問題に対する予想や仮説を立てる時間を十分に確保し、実験の目的を明らかにしてから実験するようにすることで、考察の視点を明らかにするなど、指導の改善を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。 ○季節ごとの植物の成長の様子について答える問題、季節ごとの植物の状態を考える問題の正答率が高い。 ●骨の働きを説明した文章を選ぶ問題の正答率が低い。体の成長に関する理解に課題が見られる。	・日常的に植物を世話する機会を増やすこと、また、身の回りの植物を観察する際には、観察の対象の植物だけでなく、気温や季節などの視点を含めて総合的に捉えながら観察するようにすることで、理解を深められるようにする。 ・ヒトの体の仕組みなど、実験で確認することが難しい分野について、自分の腕を触って感覚をつかんだり、模型を使って関節の動きを視覚的に捉える活動を重視していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○時間とともに変化する星の動きと星座の並び方を問う問題の正答率は、市の平均を上回っている。 ●1日の気温の変わり方を示したグラフを適切に読み取る問題の正答率が低い。 ●窓に結露が発生する理由と結露の水滴がつく場所について考える問題の正答率が低い。	・星の観察については、明るさや場所など観察時の条件等で難しい場合も考えられるので、インターネットの画像や動画なども活用し、さらに理解が深まるようにする。 ・実際に、時間とともに気温の変化を計測する機会では、適したグラフに表すように指導する。 ・日常生活から、結露を観察する場面を設定する。また、粒子の領域と同様、考察することに課題があると考えられるので、考察の場面の指導の改善を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は96.3%であり、家庭での学習習慣が身に付いている児童が多い。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」と回答した児童の割合は75.9%である。学校司書と連携し、学習内容に関連する図書資料やWebサイト等を授業の中で活用した成果であると考えられる。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した児童の割合は85.2%である。授業の中でペアや小グループで話し合う活動を積極的に取り入れてきた成果であると考えられる。また、自分の意見をもって話し合いに参加できるように、学習課題に対して自分で考える時間を確保するように努めてきた。引き続き、自分の考えをもとに友達と話し合うことを通して考えを深める学習活動に取り組んでいきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」と回答した児童の割合は81.5%であり、クラスでの係や当番の仕事を積極的に取り組んでいる成果であると考えられる。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合が低く、十分とはいえない状況である。宿題が授業の復習につながっていることを児童が意識していないことも考えられる。宿題の内容を工夫したり、自主学習への取り組み方などを啓発したりしていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)。」の質問に「4時間以上」と回答した児童の割合は31.5%である。視力の低下や睡眠不足など成長期の健康被害が心配されるため、日々の時間設定を自分で決めたり、家庭で話し合ったりして、時間の使い方について考えさせ、実践を図りたい。

●「地いきや社会で起っている問題やできごとに関心がある。」と回答した児童の割合が低い。本やインターネット、ニュース番組などを活用しながら情報収集し、地域や社会の魅力や新たな発見ができるように支援していきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的な知識・技能の確実な定着	・朝の学習にT・T体制を取り入れたら、習熟別プリントに取り組んだりするなど、個に応じた指導の充実を図る。 ・家庭学習強化週間を設け、めあてを持って学習に取り組むことで、学習習慣の定着を図る。	・漢字の読み書きや基本的な計算について、市や県の平均を上回るものが増えてきた。 ・家庭学習において、宿題への意識は高いが、自主学習への取組や、学習時間の十分な確保に課題が見られる。
課題設定を工夫による主体的に学ぶ力の向上	・児童にとって解決する価値のある課題設定をすることで、学習意欲の向上を図る。 ・実生活や実社会に関連した課題設定の工夫をすることで、学びを自分事として捉えることができるようにする。	・勉強していて、おもしろい、楽しい、不思議だな、なぜだろうと感じている児童の割合が多い。 ・疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたいと考えている児童の割合が少なく、学びを自分事として捉えることが難しい。
互いの情報や考えを可視化する活動の工夫による学びの充実	・自分の考えを簡潔な文章でまとめる時間や、話し合った内容を簡潔にまとめる時間を設定する。 ・児童自身の言葉で論述しながら振り返る時間を設ける。	・半数以上の児童が授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しいと感じており、書くことに対して苦手意識を持っている児童が多い。 ・自分の考えを書こうとする意欲や、書く力が低く、課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
書くことに苦手意識を感じている児童が多く、自分の考えを述べたり、理由を説明したりする問題の正答率が低く、無回答率も高い。	文章を書く機会を積極的に設け、文を書くことへの苦手意識や抵抗感を払拭する。	・朝の学習で短作文に取り組んだり、授業の振り返りを自分の言葉で書いたりすることで、短い文章から抵抗なく書けるようにしていく。 ・目的意識や相手意識を明確にした課題を設定することで、書くことへの意欲付けを図る。 ・授業の中で、自力解決の時間を確保したり、個に応じた支援を行ったりし、効果的に話し合い活動ができるようにする。また、なぜそう考えたのか問い返すなどしながら、理由を説明できるようにする。
基礎・基本の定着は図れてきたが、それらを活用する力に課題が見られる。	児童に合った支援や教材を精選し、苦手分野を克服する。	・引き続き、TTや少人数指導を朝の学習に取り入れ、児童の課題を見つけ、支援していく。 ・今後は、基礎的な読み書き、計算に加え、それらを活用する力も育てていく。
TVやYouTube等の視聴時間が長すぎる児童が一定数おり、生活習慣の見直しが必要である。	家庭と連携を図ることで、生活習慣の見直しを図る。	・ノースマホデー等を活用し、家庭と連携しながら、TVの視聴時間やゲーム利用時間等のきまりを啓発、徹底していく。